



## 元気に育て 私たちの宝 5/5

泣き相撲大会田名部場所  
土曜日

子どもの日の5月5日、田名部神社にて泣き相撲大会田名部場所が開催され、生後半年から3歳未満の子どもたち42名が、宮司さんが用意した一人ひとりの名前入りまわしを締め元気な泣き声を響かせました。

中には取り組み前から泣き出してしまう子や、最後までにこにこ笑顔の子など、その一挙一動に観客からは大きな歓声があがり、会場は大いに盛り上がりました。大事な大事な地域の宝、子どもたち。たくさん泣いてたくさん笑って、元気な成長を願います。

## 圧巻の走りねばりの走り 5/3

第71回憲法記念下北駅伝競走大会  
木曜日

憲法記念日のこの日、第71回憲法記念下北駅伝競走大会が開催され、日本国憲法施行の翌年から始まった全国でも唯一の伝統あるこの大会に、総勢41チーム選手240名が出場し、むつ運動公園陸上競技場と大湊・田名部市街地の22.9kmを駆け抜けました。今年の優勝チームは、一般・高校男子の部は田名部高校、中学校男子の部は田名部中学校、女子の部は田名部中学校A。

また、大会史上はじめて名誉大会長であるむつ市長が選手として走るなど、むつ市の春の風物詩に沿道は大いに沸いていました。



「大畑にはき、せつかくいい魚がいっぱいあるんだから、みんなにうまい魚食べさせて、漁師の生き様を見せて、ここはいいところだなんて思ってもらえればと思ってさ。」  
今年2月に「海峡ロデオ大畑」という団体を立ち上げ、4月には定置網漁業体験第1弾として「春の津軽海峡定置網ぎよ魚！漁獲体験」イベントを企画。漁師の生き様とも言うべき漁獲体験や行きつけの地元銭湯で一緒にひとつ風呂など、参加者は大畑を堪能する1泊2日を過ごし、イベントは大成功に終わりました。

「まず、会の名前をどうするかってなってね。漁は静かな海でやるわけじゃない。船に乗れば揺られて揺られてまさに荒馬に乗るロデオと一緒に。それで『ロデオ』って口にしたらみんな『それいいんじゃないか』って。」  
インパクトのあるその名前は企画を盛り上げ、仲間の気持ちをひとつにするために大いに役立ちました。  
「秋のイベントもすでに企画済み。大間も風間浦も良いとこだけど、大畑で足を止めさせるくらいの気持ちでね。むつ市のうまいは日本一って言うのでしょ！」  
佐藤さんは言います。  
「まずは2回3回と続けて。それが4回5回となつて次の代へもつながって、となれば良いよね。まずはわい達の世代が頑張らないと。」  
その熱意の源は「自分たちのまちが元気なまちであり続けたい」その一言です。



この人  
むつちゆ星

海峡ロデオ大畑会長  
(株)金亀水産 金亀丸船長  
佐藤 敏美 さん

## 憩いをつなぐ 待望の再開 4/22

コミュニティセンター脇野沢温泉オープン  
日曜日

平成27年9月から休止していた脇野沢温泉のリニューアルオープニングセレモニーが開催され、関係者ら約200人が待望の再開を祝いました。

憩いの空間として新たに設けられたコミュニティスペースでは、地元婦人会などによるお惣菜やスムージーなどの販売、隣接するガラスハウスでは、地域運営組織「わきのさわ温泉湯好会」のメンバーが、湯上がりなどに楽しんでいただくハーブの栽培に精力的に取り組んでいます。脇野沢では5月12日からイルカウォッチングコースもスタート。「イルカに逢って、温泉を楽しむ」そんな休日などいかがでしょうか。



## 満開の桜がみんなを笑顔に 4/27

桜満開宣言  
金曜日

桜の開花の時期をむかえ、満開に咲いた桜の木の下で「桜満開宣言」が行われました。水源池公園にて開催された満開宣言には星美幼稚園の園児45名のほか、昨年から実施している「むつ市の桜満開プロジェクト・花咲か大作戦」にご協力いただいた関係者のみなさまにも参加していただき、満開に咲きほこる桜を市長と一緒に祝いました。

今年の水源地公園の桜は昨年比2割程度花の数が多く、市民のみなさまの力で咲いた桜の花のもと、参加者の笑顔も満開となっていました。



## 私たちのまちをいつもきれいに 4/21

第24回青森県春のクリーン大作戦  
土曜日

大型連休を前に「小さな親切」運動青森県本部(青森銀行)と(公社)青森県観光連盟が共催する第24回青森県春のクリーン大作戦が県内各地において一斉に開催され、むつ市内ではむつ中学校の生徒や市民のみなさま約150名が田名部川河川敷の清掃を実施しました。

子どもからお年寄りまでが参加し交流しながら、美しく住みよい青森県を築くために「小さなお手伝い」をしようというこの活動は、例年県内約500か所、約10万人が参加する活動になっています。



## 漁師も森を育てています 4/26

漁師の森植樹祭  
木曜日

豊かな海の恵みは豊かな山から。私たちが恩恵を受ける新鮮な海の恵みは、広大な森が生み出す栄養素が海に送り届けられて育まれます。この恵みを将来にわたって守るため、川内町漁協の漁業関係者を中心に、川内小学校の児童など約60名が、川内町獅子畑地区にブナやナラ合計300本の苗木を植樹しました。

多くの木々が山に育ち、豊かな自然が育まれる未来の光景を思い描きながら、漁師の森には来年も植樹が予定されています。

